

チームでの「伝え愛」で、よりよい授業を

ハイライト：

- ・よりよい授業をつくる
～チームでの伝え愛～
- ・提案授業では、3つの「目の輝き」をめざします。
- ・聴き合い・語り合いとは
～ペアからグループへ～
- ・聴き合い・語り合いとは
～考えの価値を問う～
- ・協議会の方法は、実践交流会、研究発表会につながります。

よりよい授業をつくる ～チームでの「伝え愛」～

5月8日に行った研修では、短い時間設定の中、主体的な協議が展開され、有意義な会になりました。ここで、前回の内容を整理しておきます。

本年度先生方に実践していただく授業は、①1学期公開授業及び授業参観指導、②6月29日久山町人権教育実践交流会、③2学期公開授業及び授業参観指導、④11月8日研究発表会という4つになります。近接学年部会において、昨年度の実践をもとに、どの単元で実践していくのか、大まかな見通しをもつことができました。

このような中期のスパンで授業実践を行っていくことは、これまで久原小学校が進めてきたイノベーション（技術革新）を「つなぎ」、「進化」させていくこととなります。

「つなぐ」ことの一つとして、近接学年のチーム力を生かした授業づくり

があります。近接学年の先生方がそれぞれのよさを共有し合い、よりよい授業へと「進化」させていきましょう。

また、子どもの目が輝く学習の基盤となる条件整備（①課題と発問の工夫、②支持的風土づくり、③交流のルールづくり）についても、近接学年における協議を教師間の聴き合い・語り合いにまで高め、しっかりと行っていきましょう。

本年度の研究で主張している「AKB大作戦」での「伝え愛」は、子どもたちに身に付けさせたいものです。しかし、これは、子どもたちだけに限ったものではありません。久原小の教職員の中に「伝え愛」が生み出せたとき、授業は、さらによりものへと進化していくこととなります。そのために、自分の考えをしっかりとって、主体的に授業づくりに臨んでいきましょう。

提案授業では、3つの「目の輝き」をめざします。

5月15日（火）5校時に、4年1組において提案授業を行います。今回の提案授業では、算数科「何倍でしょう」の学習を通して、「子どもの目の輝き」「聴き合い・語り合い活動」について、具体的な子どもの姿を見取り、協議をすすめていきます。

公開する単元は、昨年度5月に行った授業と同じ単元となります。昨年度の実践を「子どもの目の輝き」「聴き合い・語り合い活動」という観点から見直し、再構成しています。

本時の学習では、3つの「目の輝き」をめざしています。

まず一つ目は、見通しの段階で、「この方法で解決している」という考えを明確にもつことができますようにします。

これは、子どものつぶやきや様相、ノートへの記述から見取っていきましょう。

二つ目は、自力追究の段階で、「できた」という思いを強くもつことができるようにしていきます。ここでは、後半にグループでの「聴き合い・語り合い活動」を設定します。この活動が、本時の問題を解決し、「できた」という思いを強めることができたのかどうか見取ってきましょう。

三つ目は、集団交流の段階で、「わかった」という思いを強めていきます。ここでも、「聴き合い・語り合い活動」を設定します。問題解決から導き出される数学的な価値を理解し、「わかった」という思いが強化できたかがポイントです。

聴き合い・語り合いとは ～ペアからグループへ～

今回の提案授業では、2つの「聴き合い・語り合い活動」を設定しています。

まず一つ目は、自力追究の後半に行うグループ交流です。グループ交流を取り入れたねらいは、自分の考えを相手に説明するという算数的活動による思考力の育成にあります。

一般的には、集団交流の前にペア交流を設定していくことが多くみられます。ペア交流のよさは、一人一人に考えを説明する場が保障され、自分の考えを整理しやすいことです。しかし、一対一の場では、相手を意識して説明していくことが十分にはできません。

中学年の子どもの発達段階から考えるとペア交流からレベルアップしたグループ交流を仕組むことが、「伝え愛」を生み出し、思考力の育成につながっていくのです。高学年では、よりレベルアップしたフリー交流も仕組むことができるでしょう。

指導案では、「語り合い」「聴き合い」を分けてとらえ、評価の観点を記述しています。「語る」にとどまらず「語り合い」に、「聴く」にとどまらず「聴き合い」になっているのかどうか、めざす子どもの姿をより具体化していくことが大切です。

よりよい授業を生み出すためには、チームでの「伝え愛」が大切です



聴き合い・語り合いとは ～考えの価値を問う～

「聴き合い・語り合い活動」の二つ目は、集団交流時に行います。ここでのねらいは、自力追究でつくりあげた考えの数学的な価値を問うことで、オペレータ（変量）の考え方のよさについての理解を深めていくことです。

本単元のねらいは、あくまでオペレータの考え方を理解させていくことです。算数が苦手な子どもたちは、順に考えていく方が簡単だととらえやすいです。すぐに、順に考えていくことを否定するのではなく、「聴き合い・語り合い活動」を通して、オペレータの考

え方のよさを理解させていきます。

前回の研修で整理していきましたが、算数の学習では、1単位時間のどの段階にも「聴き合い・語り合い活動」を設定することができます。今回は、2回設定していますが、本来は、本時学習のねらいに応じた1回の設定が質の高い交流を生み出すことができ、効果的となります。

大切なことは、ねらいを意識して「聴き合い・語り合い活動」を設定し、その内容を工夫していくことなのです。

協議会の方法は、実践交流会、研究発表会へとつながります。

協議会は、次のようにすすめます。

全体司会（植田）記録（田代）	於：軽運動室
1 講師紹介（校長）	15：10
2 協議	15：15～16：10
・グループ協議（KJ法）	
・報告（低学年：豊原 中学年：植田 高学年：木原）	
3 指導助言（安部指導主事）	16：10～16：40
4 謝辞・まとめ（教頭）	16：40

協議会は、KJ法を用いて行います。今回の協議会のねらいは、提案授業を通して、研究テーマを共有していくことと併せて、実践交流会と研究発表会での協議会を試行していくとうねらいもあります。

授業参観者が記入した付箋をもとにKJ法での協議を展開していきます。今回は、軽運動室で近接学年部会ごとにホワイトボードを使って行いますので、協議会の進行面での課題についても明らかにしていきます。